



蒼穹

あおぞら

八戸市立長者中学校
学校だより第16号
文責：石毛 清八
平成30年 2月 7日
TEL (0178) 43-4871

学校教育実践功労表彰受賞

「自ら学び、考え、行動する生徒の育成」をテーマとした 校内研究の取組～『学び合い』による授業実践～

5日、八戸市庁教育長室にて「平成29年度学校教育実践功労表彰」の表彰式が行われ、本校の『学び合い』による授業実践が高く評価され、伊藤教育長より表彰を受けました。受賞理由として教育長は「生徒の学力向上と生きる力の育成を目指し先進的な主題を掲げ4年間継続して校内研究に取り組みすばらしい成果をあげられました。これまでの御尽力と御功労を讃え本市の教育活動のよき範として今後ますますの発展を期待し表彰いたします」
平成30年2月5日
八戸市教育委員会
教育長 伊藤 博章



「自ら学び、考え、行動する生徒の育成」 をテーマとした校内研究の取組 ～『学び合い』による授業実践～



八戸市立長者中学校

①

■平成27年度

- 6月 上越教育大 西川研究室への派遣研修、実践校視察
- 6月 宮城県角田市立金津中学校より視察
- 11月 拡大校内研修会 合同『学び合い』公開授業
西川純教授による講演会 県内外より多数来校

■平成28年度

- 6月 上越教育大 西川研究室への派遣研修、実践校視察
- 12月 拡大校内研修会 合同『学び合い』公開授業
西川純教授による講演会 県内外より多数来校
- 2月 上越教育大大学院より視察

■平成29年度

- 6月 上越教育大 西川研究室への派遣研修、実践校視察
- 12月 上越教育大大学院・上越市立城北中より視察

②

研究内容

- 1 NRTの結果分析による生徒の実態把握
- 2 年1回の全教員による授業公開と学年での話し合い
- 3 週1回の教科部会による取り組み状況の確認
- 4 年4回の生徒による授業評価をもとにした授業改善
- 5 年2回の「学びのアンケート」による授業規律の改善
- 6 年1回の拡大校内研修会による外部への授業公開
- 7 上越教育大学及び実践校への教員派遣研修の実施

これまでの取組

■平成26年度

- 4月 4年計画の1年次がスタート
- 6月 上越教育大学教職大学院 西川研究室への教員派遣研修、実践校視察
- 7月 拡大校内研修会
合同『学び合い』特別授業
講師：上越教育大学教職大学院教授 西川純 氏
静岡市立美和中学校来校他、県内外より多数来校
- 1月 佐賀市立城北中学校、伊達市立保原小学校より視察

⑦

『学び合い』の授業づくり

■人とのかわりを通して、

一人も見捨てず、全員が参加する授業

- ・学級の全員が課題を達成することを目指して、子ども同士で聞き合い、教え合い、学び合いながら学習を進めていく。
- ・『学び合い』を通して、全員の学力向上を目指すとともに、子どもが主体的に学習を進める姿を目指していく。

■『学び合い』と「主体的・対話的で深い学び」

- ・文部科学省は、2020年度予定の学習指導要領本格実施に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指している。
- ・「主体的・対話的で深い学び」とは、一斉指導からの脱却を図り、学習者が能動的に課題を見つけ、解決に向けて求め続け、成果を出すまでの過程を学ぶ側が主体的に行う学習。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を具現化した授業が、まさに、『学び合い』の考え方による授業と言える。

⑫

『学び合い』の授業の風景

1 課題を示す

生徒たちに、今日の課題と目標、評価基準を伝えます。教師の話はおよそ5分程度です。



⑬

2 生徒たちが動き出す

「さあ始めてください」という先生のかけ声で、生徒の移動が始まります。徐々にグループができあがります。



3 最初のグループでまず『学び合い』

「こうかなあ」いや、そこはこうなんじゃない？」などと、最初のグループでの討論や教え合いがまず始まります。



⑭

4 さらに動きが出てくる!

自分たちのグループでは問題が解決しない! とすると、他のグループに聞きに行くなど、さらに動きが生まれます。



5 名札マグネットを活用して可視化を図る

あらかじめ黒板に全員の名札マグネットをはっておきます。課題を達成できたら達成エリアに各自でマグネットを移動します。今現在、誰が課題を達成できているのかわかるのが一目瞭然になります。



6 全員わかるころまで

わからない子がわかっていく子に聞きに行ったり、できている子が教えに行き、「全員がわかる」を目指します。「あー、わかった!」「よかった!」「おつかれさま!」



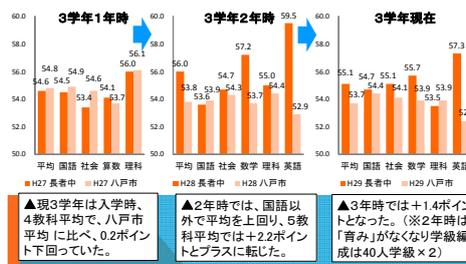
7 振り返り

「今日は達成できなかった人が3人いるけど、みんながみんなのために精一杯できたかな?『みんな』ができることを期待します」などその時間のクラスとしての学びについて教師が評価して終わります。ミニテストで学びを見取る場合もあります。



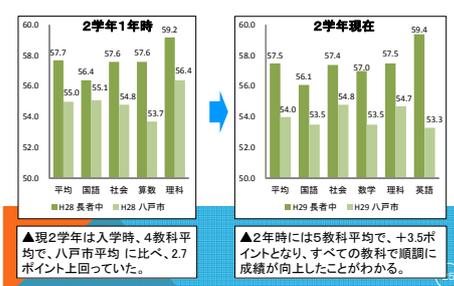
『学び合い』は学力向上につながっています

標準学力検査NRT偏差値の推移(H27~H29・4月実施)



- ▲現3学年は入学時、4教科平均で、八戸市平均に比べ、0.2ポイント下回っていた。
- ▲2年時では、国語以外で平均を上回り、5教科平均では+2.2ポイントとプラスに転じた。
- ▲3年時では+1.4ポイントとなった。(※2年時は「育み」がなくなり学級編成は40人学級×2)

標準学力検査NRT偏差値の推移(H28~H29・4月実施)



- ▲現2学年は入学時、4教科平均で、八戸市平均に比べ、2.7ポイント上回っていた。
- ▲2年時には5教科平均で、+3.5ポイントとなり、すべての教科で順調に成績が向上したことがわかる。

生徒の声

- ・単元ごとにテストがあるので『学び合い』で確実に理解していなければならぬので集中できます。わからないところがあればすぐに友達や先生に聞ける環境にあるので学習しやすいです。(2年)
- ・課題がいろいろな人とかわるような内容なので、自分だけでなく、他の人のためにも家で予習をしてくる人が多くて、授業でたくさんの方がいる人々のために頑張っていて、『学び合い』でしかできない授業が好きです。(3年)

- ・1・2年生のときは、とにかく早さ、スピード、スピード、早く終わればよし!みたいな感じでした。しかし、3年生になってからは質も大事にしていこうになりました。(3年)
- ・初めの頃は、わからなかったらすぐに人に聞くことが多かったのですが、今はまず自分で考え、他の人と意見を共有するようになりました。クラスの人たちと話し合っ自分の理解を深めることができる『学び合い』がいいです。(3年)
- ・ワークなどをやっていない友達に粘り強く励ますことで、なんとか達成できました。自分もうれしくなりました。(3年)



情報発信

『学び合い』リーフレット



各家庭・地域・関係者に配布

研究の成果

- ・NRT偏差値の推移、全国・県学力状況調査等の結果から、目に見える学力の向上が見られた。
- ・生徒の中に、自分たちで考えて行動しなければならないという意識が高まり、主体的に学ぼうという姿勢が見られるようになった。

- ・全教員による年1回の授業公開と、生徒一人一人の学びの様子に焦点を当てた話し合いにより、生徒理解と授業改善を進めることができた。
- ・校外派遣研修を継続することにより、個々の教員の資質能力が向上するとともに、研究を支えるリーダーが多教育ってきている。

研究の課題

- ・諸検査、アンケート結果を全教員が真摯に受け止め、授業改善に生かしていく必要がある。
- ・今後も教員同士による自由な雰囲気での授業参観や共同授業により、授業力の向上と生徒を多面的に理解する力を高めていく必要がある。
- ・諸検査で浮き彫りになった自己肯定感の低さを解消するために学年・教科・領域など全校体制で対策を考え、共通実践していかなければならない。



“届けよう、服のチカラ”アワード2017 優秀賞

2日、東京・六本木のミッドタウンにおいて、ユニクロが主催する“届けよう服のチカラ”アワード2017の表彰式が行われ、本校の3年間にわたる活動が高く評価され優秀賞を受賞しました。この賞は同社が展開する難民救援活動“届けよう服のチカラ”プロジェクトを実施した全国322校の中から選ばれたもの。生徒たちは、一人一人が国際的視野から物事を見つめること、難民に対する正しい知識をもち自分たちで協力できることを探し活動することの2つを目標に活動に取り組んできました。9月に本校を含む5つの協力団体にポスターやチラシを作成し子ども服の回収告知を行い、文化祭では1教室を使って活動内容を展示し、地域にも呼びかけた結果、4220枚の服が集まりました。ご協力いただいた保護者の皆様、地域の皆様に改めて感謝いたします。

